

## 理研計器株式会社 開発センター

### 人々が安心して働ける環境づくりを提案し続けて約80年

理研計器株式会社は、1939年「財団法人理化学研究所」(現国立研究開発法人理化学研究所)のコンツェルンの一社として創設されました。

約80年にわたり、産業用ガス検知器・警報器の開発、製造、品質管理、販売、アフターサービスを、一貫してお客様に提供しております。開発センターは、本社敷地内に分散していた開発部門、生産部門、および品質管理部門を、技術開発の強化、生産技術力・品質の向上を目的として、2015年に埼玉県春日部市に集約し、ガス検知器・警報器の心臓部であるセンサの開発から製造、品質管理をスピーディーに対応し、新製品の開発を行っております。

産業用ガス検知器・警報器の設置されている場所は実に多岐にわたります。半導体工場、石油コンビナート、製鉄所、石油や天然ガスのタンカー、食品工場、大学、研究所、火山や遊園地等々、ガスを消費・製造・貯蔵・発生するありとあらゆる現場が、私達の製品が活躍するフィールドです。それぞれのフィールドからは、ppbオーダーから100%までの幅広い濃度のガス検知の要求があります。その要求に

応えるために、当社では様々な原理のセンサを開発しており、それぞれのセンサの特性を活かして対応を行っております。

主力製品はガス検知器・警報器ですが、理化学研究所にて研究された分析機器の製品化も一部行っております。物質の仕事関数やイオン化ポテンシャルを、大気中で測定可能な大気中光電子収量分光装置は、有機EL材料をはじめとした様々な材料の基礎研究に全世界で活用いただいております。また、可搬型でX線回析と蛍光X線解析が可能な可搬型複合X線分析装置は、ツタンカーメンの黄金のマスクの分析にも用いられており、常識を覆すような結果が得られております。

理研計器株式会社は、「人々が安心して働ける環境づくり」を永久のテーマとしております。ガス検知器・警報器における安全・安心をベースとし、研究開発や歴史の謎の解明に役立つ分析機器をプラスアルファの価値の創造として、今後も様々な産業にアプリケーションを提案していきます。

(営業技術部 営業企画課 寺内靖裕)



春日部開発センター



開発風景